

# 聰明舎に入ってから彼の勉強の仕方も本当に変わったんですよ。ホント変わりましたね。もうびっくりするぐらい。

聰明舎だったら頑張って希望の高校にも入れるようにする。それができる気がするって本人が。

まず、他の塾に行かせたこともあるんですけど、子供のやる気が全く出ない。例えば個別指導であっても、やはり子供のやる気を引き出せる塾とやる気を引き出せない塾は、これだけ子供の目の輝きが違うんだというところもすごく感じました。別の新しい塾のやり方には楽しさがない。やってて楽しくないと、勉強しても楽しくないっていうことを散々言ってきて、で、本人がまた私の方に今の塾をやめて聰明舎に通わせてくださいって言ってきたんです。聰明舎だったら頑張って希望の高校にも入れるようにする。それができる気がすると言うんです。で、そのときに聰明舎に入ってから彼の勉強の仕方も本当に変わったんですよ。ホント変わりましたね。もうびっくりするぐらい。やっぱりすごく不安を抱えてたと思うんです。受験で、サッカーもやめられないし、その中で自分が行きたい高校に果たしてこの勉強方法で行けるのか?っていうことをいつも自問自答していく。それを森末先生に頼み込んで拾ってもらえないでいるからっていうことでお願いして入れてもらったんです。(中3の)10月からですね。実際、試験日(入試)が2月14日ですからわずか3ヶ月4ヶ月のことだったんですけども、その3ヶ月4ヶ月で、ものすごい頑張って、精神的にもすごく成長したんですよ。もうあれは本当にびっくりしました。

自分が子育てる中ではできないところを自然に引き出してくれるっていうのは先生方の力。

小学生で聰明舎に入ってすごく性格的に積極的になったんですね。わずか1年間、聰明舎で先生方と1週間に1回ですけど顔を合わせてコミュニケーションを取る間にだんだん自分に自信を持てるようになっていったんだと思うんです。笑顔も多くなったし、人の前に出るようになってきましたね。聰明舎の先生から聞くお話で何らか自分の心に響くところがあるんですね、なんかその話を聞いたときにそれを嬉しそうに親に話す彼らの表情はとても輝いていました。そして、それを人も話せるようになってるんですよ。学校での発表とか、クラブでの発表のときなどでも、聰明舎で聞いた話を人の前で3分スピーチで話したりするのが二人とも好きになったように思います。これは自分が子育てる中ではできないところじゃないですか。子供に前に出なさい前に出なさいって言つても出てくれないし。でもそれを自然に引き出してくれるっていうのは先生方の力なんだと思います。なんかこの塾のおかげで親子の絆も深まったところもすごくあって、小学生のときの親子関係と、高校生になった今もあり変わらないんですよね。男の子って話さなくなるとか色々言われるんですけど、聰明舎のおかげで今も二人とも小学生のときと同じ関係でいられています。

誰一人退屈している子供はいないといつも感じていました。

私はとにかく授業参観がとても好きで、参観日とか、それ以外にも子供の様子が気になるときは「ちょっと見学させてください」って小学生のときはちょくちょく見に来たりもしたんです。そのたびにいろんな先生の授業を受けるんですけども、とにかく聰明舎のどの先生方も本当に一生懸命で子供たちの気持ちをちゃんと集中して、自分のところに持っているんですね。誰一人退屈している子供はいないといつも感じていました。それだけ先生方がすごく熱意を持って自分で伝えたいことを子供たちに一生懸命伝えてくれているっていうことがとても親としては嬉しかったです。

生徒を子供扱いしないところが彼らにとってはすごく魅力。一人の人間として対等に話してくれるから、子供たちにはすごく近い存在なんです。

塾では彼らを子供扱いしないところが小学校のときから彼らにとってはすごく魅力だったのだと思います。学校の先生とは違って自分を一人の人間として対等に話してくれるっていうところは彼らはとても

びっくりしたと思います。人ととの付き合いをしてくださるんですね。先生と生徒っていう感じではなく...もちろん本当は心の中では先生と生徒なんんですけど、子供たちにはすごく近い存在なんです。学校の先生よりもっと心が近いっていうかすごく信頼してました。あ、今でももちろん信頼してるんですけど(笑)。

**小3のときから高3になった今でも同じ先生と話ができる。聰明舎の先生たちと一緒に勉強をさせてもらったことが、彼らのこれから的人生にとってすごく大きな意味を持つと思っています。**

小さいときから見ていたいいる先生が変わらずいる、小学3年生のときから高校3年生になった今でも同じ先生と話ができるっていう。その長い時間をかけて培った信頼関係ももちろんあると思います。やっぱりそういう大人と接する機会って、子供はすごく少ないので。学校の先生、うちの場合はサッカークラブのコーチの人たち、それと聰明舎の先生方が彼らの身近な大人。その大人たちが彼らの人格と一緒に作ってくださった方々だと思うんです。その中でも私はこの場所を選んで、聰明舎の先生方と一緒に勉強をさせてもらったことが、彼らのこれから的人生にとってすごく大きな意味を持つと思っています。本当にこんな近くにこんないい塾があってよかったと思ってます。

上柳さん 保護者



森末浩之 聰明舎代表



# 合格したときに一番先に言ってくれる よね?って聞くと、 いや塾の方が先...って。それぐらい好きみたい。

子供が多感な時期に関わる大人の影響力って、すごく重要だと思っています。

親か学校の先生しか関われない中で、なんかちょっとだけ、変な言い方ですけど、普通じゃないっていうか、変わった先生、個性的な先生といろいろ関わった中で、自分がどう思うのかを学んで欲しかったので、すごく相性的にはよかったなと思うんですよね。家に帰ってきてから塾や塾の先生の話を二人ともしてくれるんですけど、なんかすごいんだすごいんだって、尊敬もすごくしていて。子供のときに大人で誰かを尊敬してるとかって、あんまり出てこなかったんですけど、自分は。だけど本当に真剣に尊敬もしてるし信頼もしてるんですよね。泣いちゃうでしょ?合格したときに一番先に言ってくれるよね?って聞くと、いや塾(の方が先)…って言われて。もうすぐ大学受験ありますけど大学受験も一番先に言ってくれるよね?って聞いたら、いや塾(の方が先)…って。どうして?ってちょっと思っちゃうんですけど、それぐらい好きみたい。

**子供たちも先生は好きだし、その話を聞いて私も嬉しい。**

嫌いな教科とかも先生に恥をかかせたくないって、だから頑張るんだとか。だから多分結果とか出たらすぐ真っ先に持って行く。できなかつたらごめんなさいって言ってると思います。せっかく教えてもらったのに申し訳ないってすごく言うんですよね。じゃあ自分ができることはいい大学にチャレンジして、この塾の実績を上げることだって思ってる。息子はそれを励みに一生懸命頑張っている。だからきっと嫌いな教科も、好きな先生に教えてもらえば頑張ろうって気持ちになれるんだって普通に言ってくるので、そんなことでそうなるの?みたいな感じなんです。「塾の実績のために(難関大)受けるから」って言われて、「そんなことがある?」ってなるじゃないですか。

**卒業式。私、あれ本当にびっくりしちゃって。普通の塾がそんなことやるんだって。**

普段すごく真面目に勉強を教てる先生が仮装して、女装して、そんな塾ってあるの(笑)?ってビックリしちゃって(笑)。ほんと、おかしいくらい踊って、恥ずかし気もなく堂々としてる姿を見たらすごいなと思って(笑)。こういう人に、こういう大人に、うちの子も預けて、あんなてもらいたいって思った。私、変ですかねえ(笑)?塾として本来やらないそういうイベントとかを見て、「いい人間育成」というか、そうやって案内には書いてあったけど、実際どうなんだろう?って思うじゃないですか。特に最初の頃は。だけどそれを自分が目の当たりにすると「ああ、なるほどな」とかって、体感したという。本当に言ってることをやってるんだなあと思った。あと聰明舎でゴミ拾いとかやるじゃないですか。一年間の最後に。それもすごいなと思ったんですけど、この間息子と二人でコンビニに買い物に行ったときに、外に大きいペットボトルのゴミが落ちてたんです。それ普通に拾ってゴミ捨て場を探すんですけどゴミ箱がなくって、ゴミ捨て場を聞いて、大きすぎてゴミ箱に入らなくて私のところに来て「どうしたらいいかな?」って言うんです。ちっちゃく潰してようやく捨てられるっていう。昔だったら、絶対そんなことしなかったんじゃない?って言ったら、「聰明舎の友達で普段どうしようもねえ奴と思ってたのに、瀬谷駅で倒れた自転車を起こそうとしているおばあさんを手伝っている姿みて、自分もやらなきゃって思った」って話してくれたんです。

本当に、なんでみんな聰明舎に来ないんだろう?  
って思っちゃう。

本当だったら出し惜しみじゃないけど、自分でいいところ通っているみたいに思うけれども、やっぱりこういう塾ってあまりないのでね、もっとみんな通えばいいのに、みんなもったいないなって思っちゃっています。このモットーは「勉強もできるいい奴になろう」ですけど、私は勉強はできなくてもいい奴にはなって欲しいんです。子供に、人として嫌な奴になってほしくないって思ったときに、ちょっと人間くさいこの聰明舎の感じがいいのかな?って思います。受験ってやはり競争だから、蹴落とす蹴落とされるとか、そういうのかなと思ったら聰明舎を見てると結構違って「みんな一緒にやるぞ!」みたいな感じなんです。「何でお前やらないんだよ!」みたいな感じとかで、いい競い合いをしているから「今日俺は何時間やったぞ!」みたいなのもみんなでアブリで確認あって、競争あって「あいつがやるから、俺もこれやんなきゃ!」とか、夜も2時頃になって「俺たちこれからちょっとオンラインで友達と教え合いやるから、うるさくなるかもよ」とか言ってくるんですよ。苦手な部分の教え合いとかしていて、それがなんかすごく良い関係だなと思って。「自分でいいです。点とりたいから。」とかじゃないんだなあと思って。みんな良い子だと思います(笑)。ほんと、みんな良い子(笑)。だから数学が苦手だとしたら理系がすごく得意な子に教えてもらう。その代わり僕はその後に英語を教えるよと。そういうのをやりあってる関係を見たらすごく素敵な関係だなと思う。そういう風な友達って素敵だなとか思っているんですけどね。

できなくてもわがまま言っても、絶対に見捨てない。ここまでしてくれるって、なかなかないんじゃないかな?って思う。

普通の塾だったら面倒見れないときはやめさせられちゃうじゃないですか。だから私いつも不安な中、でもそういう処分はせず、本人は逃げても追っかけてビシってやってくれるじゃないですか。たぶん本人も、なんだかんだあるけど絶対に自分を見捨てないって思っていて、だからここまで来れたのかなと思っています。学校休んだとしても塾には行きたいたいって言うから、そこの先生に会いたいとか、話を聞いてもらいたいとか、あるのかな?と思っています。あと、やっぱりいい点数どって喜ばせたいとかもあるのかなって思います。できないことがあつたら「俺なんて絶対無理だし。」ってやらないんですよ。だけど「何言ってんだよ。ちょっと来いよ。」って聰明舎は言ってくれて、何度も呼び出されて話し合いをしようと言ってくれる。きっと他の塾だったら対個人に対してそこまでやってくれないんじゃないかなと思っていて。それが一回二回じゃなくて、日々の出来事。特にオンラインになっちゃったときなんか、すぐ授業のオンライン上のルームから退出しちゃう。するとすぐ聰明舎から電話かかってきて「何やってんの。急いで入ろう。」とか。なんか見捨てないっていうのが本人もわかってるから、甘えて逃げたりはするけど、わがまま言っちゃっても、何しても、最終的に「俺を嫌いにならない。神だ。」って思ってる。面談とかで喋ったときに、やっぱりこんな子供を受け入れてくれるっていう、その姿勢とかにグッとくるっていうそういう感じですね。

中学後半になって、高校生になって改めてここの塾で良かったって言っていました。

下の子は本当に勉強できなくて、小学生のときに塾に連れていくって、今でも覚えてるけど、最初に入塾テストをしてすごくダメで、そのときに、先生に「今すぐ入れたらなんとか責任を取るけど、このまま中学校になってからポンって入れても責任取れない。」って言われたんです。そのとき確かに本当にひどかったから、高校も行けないと思ってたし、特別学級かもしれないって思ってたぐらい勉強を全くしない抜け殻だったんです。それが塾に入ってみると、うまいこと言えます。あと、あえて座って勉強するってことだけでもできるようになって。学校のテストですごく悪い点を取つてこなくなつたことをみても、聰明舎に入れたからここまでこれたけど、他の塾だったら続いてないんだろうな、嫌になってやめちゃったんだろうなって思います。やっぱり、周りの子や親も、ウチの子の成績が上がれば、「あの塾ってどんなことしてんの?」みたいになっちゃって、周りの子みんながドンドン来るってシステムになっちゃったんですよ。上の子は中学校に入ってしまらくして…まあ本格的には今(高校生)になってからは、本当に中学生のときにやめるとかって言ってたときもあったけど、あのときに「自分にやれって言ってくれてありがとう。」って言います。「あのときにやめてたら(勉強ができるようになった)今の自分はないし、まだ小さかったから、先生の偉大さとか実感できなかったけど、中学後半になって高校生になって改めてここの塾で良かった。」と言ってきたんです。「自分は友達がないから嫌だ。」とか「つまんない。」って言ったけど「今はすごくお母さんに感謝してる。」と。

**言葉が、その熱い思いが、ちゃんと相手に届いてることがすごい。**

聰明舎で色々話してくれることは確かにすごいと思うと言っている。アツいとも言っている。それなのに、話されたときはそうだと思うけど、すぐ忘れちゃうんだよって、だけどすごくしつこく何度も話されるから(笑)。やっぱりどこかに残るんだよって言ってる。やっぱり本当になんかすごいなと思って(笑)。しかも対子供だから。子供だったらアツい先生に何か言わたってスッて流しちゃうところを、ウチの子見ると、先生の言ったことも覚えてるし、ちゃんと響いてることがすごいなと思う。あの先生たちちょっと変わってるから、そこがやっぱり面白かったりするって言います。個性の強い人たちが、こんな大人もいるんだっていうか、そういう意味でも勉強になってるみたい。私は塾の先生は個性的な先生がいいなって思っていた。だから、そこがもう私の中ではドンピシャ。

**聰明舎との出会いは運命的だと思っています。**

信頼してるので、私も子供も。大好きだから「ずっとやれる」ですね。不安なことがあると塾にちょっと行ってくる、ちょっと相談してくるとか言うので、安心しています。今は、いろんな個性的な子供多いじゃないですか。だから、こうしなきゃいけないっていう型にとらわれず、のびのびと、個性を伸ばしてくれるっていうのは、そういう子たちにとって、聰明舎はいいと思っています。もっと知ってほしいですよね。知ればきっとここに来て、すごく楽しくなったり、ワクワクしたり、自分でもやれるんだって、ウチの子みたいになったりするんじゃないかなと思っています。

嶋崎さん 保護者



鷲井 宏朗 聰明舎講師



# やっぱりプロの集団だなという感じですね。 教えるという点で。

この人たち明るくていいなと。こういう大人の人を見て欲しいと思って入塾させました。

うちの息子、中学生のとき「1」が7つあったんですよ。どうも勉強してないなということで、僕が毎日指導してたんですよ。それでも成績っていう点では結果が出なかったんです。これはもうダメだと。どこか塾に叩き入れようと。で、聰明舎に一度見学に行くとですね、この人たち明るくていいなと。こういう大人の人を見て欲しいと思って、聰明舎に叩き入れたところ、成績が跳ね上がったのね。どこにも行く高校がないって言われてたのに、霧が丘高校まで行けるようになったのは、やっぱプロだなと。プロの集団だな、教えるという点で、という感じですね。息子には成績という点で結果を出していただいたんですけど、彼が卒業した後も（僕自身が）やっぱり人間として付き合っていきたい先生たちとか、関係者の人と話すのが楽しいと思ったので、僕なんかはたまに会いに行っていたというわけですね。駅からバス停まで歩く中で、塾終わりの子供たちが、子供たち同士ではしゃいでる姿をよく見るんですね。でも、聰明舎はちょっと違って。先生たちともキャッキャしている。いいぞと（笑）。信頼関係を築くのが上手だなと思いますね。

聰明舎、画面越しでも熱意が伝わっちゃうんですよ。ああ嘘ついてない、そう感じました。

楠本先生とお話ししたときに、もうグイグイくるんですよ。このアツさ、若い子たちにとってみたらもう参っちゃうだろうなと。面と向かってぶつけられるってそういうと思うので。あんだけこう、圧かけられたら悪い気しないだろうなって。そういうところがやっぱり上手だし、そこに誠実さがあると思ったんですよ。ああ嘘ついてない。僕はそう感じたんですよね。自分たちもちょっとずつ開いてて引き出されちゃうんじゃないですかね。聰明舎って、画面越しでも熱意が伝わっちゃうんですよ。アツって（笑）。そういうのが自然と出ちゃうのが聰明舎だと思うんです。ポーズじゃなくて自然とグイーっとやっちゃうのが伝わっちゃうんじゃないですね。

成長幅は聰明舎は一番でかいんじゃないかな？と思うんです。

いい学校に受けっちゃんような子のなかには、もともと頭いいっていうものもあると思うんですよ。勉強できるようにさせるって、幅をこう上

げることだと思うんですけど、この成長幅は聰明舎は一番でかいんじゃないかな？と思うんです。思いますっていうか、実際（うちは）そうだったし。聰明舎はそこで人を見て逃げないというか、同じ姿勢でぶつかってみる。もちろんその中でちょっと角度は変えたりはするんでしょうけどね。その子が一番望んでるものが高い目標だったら、そこに向けてだし。あまり望んでないんだったら、次の一段ステップまでとか引き上げてあげようと、僕には見えます。褒めすぎかな（笑）？でも本当にそうだと思う。

第一印象が良かったんですよね。第二印象も良かった。

お兄ちゃんなんですよね。聰明舎の人って。輩っているじゃないですか（笑）。僕も分類されたりするんですけど（笑）。輩とかガリ勉とか色々ね。でも、聰明舎の先生って兄ちゃんって感じがするんですよ。外観とか、出てるものとか、服装とか、喋り方とかね（笑）。でもそれって本心とポーズがちゃんとできてるな（一致しているな）と思うんです。やっぱり大人としてみたら、カッコつけたくなっちゃうって気持ちもわかるんですけど、聰明舎の人はまず自分の方から開示をして、子供に

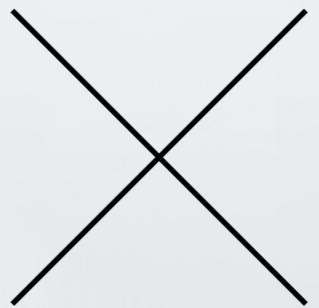
歩み寄ってもらおうという、経験なのか本音なのかあるんじゃないかなと思っています。

やっただけ返って来るっていう実感が出てきて、すごく楽しそうにしてましたよ。

息子は成績が良くないときはあんまり喋らないんですよ。運動の方はいいんですけど、勉強に関しては。それが点数が取れるようになる。やっただけ返って来るっていう実感が出てきて、すごく楽しそうにしてましたよ。「楽しいの？」って聞くと「楽しい」って返ってくる。そういうときは、間違って「くそ！」っていうときも楽しんでいたと思います。最初は何がバツかわからないから、とにかく単純に「ああバツね」って。わかるわけないよって思っていたのが、「ああこっちね！」っていうのがわかるようになってきたときに嬉しかったんじゃないかなと思いますね。やる気が本当はあるのにうまく表現できない子供たちが多いと思うんですけど、そういう子に向くと思います。その子たちが、本当は持ってる「やりたい」とか「素直にやりたい」という気持ちを引き出してくれる場所だと思います。他の塾は予備校ですよ。ここは塾ですよ。予備校は成績を取って良い学校に行くところです。塾は思想とか生き方とか、そういうものを教えるところじゃないですかね。



楠本 喜満 聰明舎講師



相川さん 保護者



# 新入試初世代となる先輩たちの体験記と受験対策の秘訣

Voice

## 合格体験記



### 卒業生体験記 VOL.1

森聖也 上智大学 文学部 英文学科 / 学習院大 [文]

#### 聰明舎に通ったことでモチベーションアップ

聰明舎に通っていたことが、私にとってモチベーションの維持に大きく寄与していました。やる気があり出ないような日も聰明舎に行くと受験生である私よりも熱意に満ちた先生方が必ずいたので、自然と自分もやらなきゃなと思えました(笑)。また聰明舎の先生方は生徒のことをよく考えてくれているし、受験が迫つて不安が多くなる時期も生徒の支えになってくれます。私自身、志望校や勉強に関して非常にお世話になりました。

#### 受験勉強への向き合い方

まず、勉強法に関しては人それぞれ向き不向きがあるということを頭に入れておくべきだと思います。私は、さまざまな先生や賢い友人に勉強法をきいたり、YouTubeなどでよく見るようなノウハウなどを参考にしました。モチベーションがあがらないときにそうした人たちのアドバイスを取り入れてみて、自分に向いてるか向いていないかを試行錯誤しつつ、1年間勉強していたと思います。また、毎日必ず触れる教科を決めるのもいいと思います。私はたとえ1日中模試で疲れてる日であれ、なんのやる気も出ないような日であれ2つは必ず触れるようにしていました。私の経験では、どんなにやる気がなくても、ちょっと勉強を始めてみると思ったよりもやる気が出てくるということもしばしばあります。

#### 大学合格のために最も大切だと思うこと

私が大学合格のために最も大切なのは、受験期との向き合い方です。受験期を通じて、自分の将来に向かって全力で努力することはとても素晴らしいことです。そしてそれは思っているよりも貴重な経験であるし、その経験がどこかで自分の支えになることは間違いないです。しかし一方で、背負いすぎないことも大切だと思います。受験は人生の大きなイベントであるのは間違いないですが、それで生死が決まるわけではありません。あくまで通過点に過ぎません。どうしてもつらいときは、そんなことをふと思い出して、肩の荷を下ろしてあげることも大切だと思います。適度な緊張感を保ちつつ心に余裕を持たせることが受験期と1番上手く向き合うコツだと思います。



松陽高校

### 卒業生体験記 VOL.2

嶋崎一心 中央大学 法学部 / 青山学院大 [法] / 立教大 [法] / 明治学院大 [法] / 専修大 [法]

#### 周りよりも動きだしが早かったことが合格への決め手



松陽高校

#### 勉強法と乗り越え方

過去問を解いたときに思うように点が取れなかったときや自分のモチベーションが下がってしまったときは、自分の得意な教科をやって気持ちを高めたり、友達と勉強の進み具合などを話したりして乗り越えました。悩む時間を極力減らし、解けなかつた所の分析を第一にし、次は満点を取れるようするということを意識してやっていました。大学受験の問題は、学校ごとにかなり問題が異なるので、過去問をたくさん解いて、問題慣れし、自分が何をしたらいいかを早めに考えるようにならなければいいと思いました。

#### 将来の夢を実現するために決めた志望校

志望校を決める際には、自分の将来のやりたいことを大切にしました。志望校を決めた時期は、高1の春で、検察官になるという自分の夢を実現するために司法試験の合格実績などを見て決めました。



### 卒業生体験記 VOL.3

和田健太 明治大学 理工学部 / 中央大 [理工] / 青山学院大 [理工] / 日本大 [理工] / 東海大 [理]

#### 仲間と一緒に乗り越えることで楽しく勉強



霧ヶ丘高校

#### 志望校は将来の夢から決定

私は将来の夢が決まっていたのでそれを叶えるためにはどうしたらいいかを考えながら決めました。そしていくつか絞り出した後は自分が興味を持ったところを志望校にしました。決めた時期は高校3年の夏休み前頃です。先生方には、色々相談に乗っていただき、安心して勉強に集中できました。



# 新入試初世代となる先輩たちの体験記と受験対策の秘訣

Voice

## 合格体験記

### 卒業生体験記 VOL.4

山崎天太 慶應義塾大学 理工学部 / 東京理科大 [理] / 明治大 [理工]

やっぱり塾と学校の先生は受験のプロ。耳を傾けよう。



私は中学受験のときも高校受験のときも、先輩の言うことも先生の言うことも両親の言うこともほぼ聞かず、全て自分でやろうとしていました。でも、振り返ってみると、大人の言うことは大体正しかったと、受験が終わって思いました。もちろん自分で考えなくてはなりませんが、大人の言うことにも耳を傾けたほうがいいと終わってから実感しています。ここに書く勉強法などは1つの例なので全く参考にしなくてもよいですが、少なくとも塾と学校の先生は受験のプロなので参考にしましょう。

聰明舎に高1から通っていれば英語が不得意になることはないと思う

勉強法について、後悔したことを踏まえて書こうと思います。理系向けです。英語は聰明舎に高1から通っていれば不得意になることはないと思います。また、単語で英語の得意不得意が決まると言つていいほど大事なので高1から詰め込みました。数学で大事なのは完璧主義にならないことです。一番おすすめな問題集は一対一(網羅系問題集)です。これが1番力がつきました。理系の多くは物化だと思います。この2つのうち1つは得意になるべきです。1つは得意、もう1つは普通くらいにしておかないと国公立、早慶は厳しいかもしれません。全体的に高校1、2年で勉強を頑張ったから3年になってもなんとか耐えたと思います。

### 志望校を高めに設定し、勉強友達と一緒に乗り越える

3年の初めからコロナで学校にも塾にも行けず、友達にも会えないのは本当につらかったです。自分1人だけで勉強を1年間続けられる人はいないと思うので学校や塾に行って友達と一緒に勉強しましょう。モチベの高い友達が1人いるだけで全然違います。また、志望校はあまり下げないほうがよかったです。行きたいところを受けるべきでした。正直自分は憧れを感じる大学は東大と慶應だけなので、周りにどう言われても東大を目指せばよかったと思います。志望校は偏差値順に決めました。日本一だから東大に行きたかったし、偏差値の高い大学を目指して損はないと思うので特に絶対に行きたい大学がないという人は偏差値で決めてもいいんじゃないですか。後悔のないよう、自分の行きたい高校、大学を受けるべきだと思います。

### 卒業生体験記 VOL.5

宮地陸 青山学院大学 経済学部 / 中央大 [国際経営] / 法政大 [経済] / 國學院大 [経済]

自分の弱点を洗い出して一つひとつ丁寧に。

松陽高校



### 志望校を早めに絞って モチベーションを維持

国公立と私立は科目的数が全く違う、勉強のやり方が全然違うので早く決めた方がいいと思います。自分は、to doリストを毎日作って勉強しました。また、友達とお互いに鼓舞したり、土日に一緒に勉強することでモチベーションを保つことができました。

### 卒業生体験記 VOL.6

徳永陽 専修大学 経営学部 / 日本大 [経済] / 帝京大 [外国語] / 東海大 [文化社会]

1人はつらい。仲間を作るべし!!



### 間違えた原因を突き止めて次回に活かす

模擬試験の成績が良くなかったとき、沢山勉強しても結果が出ないときはつらかったけれども、間違った所を復習して理解して次のテストで正解できたときは嬉しかったです。結果だけでなく間違えた原因を突き止めて次回に活かすことが大事だと思いました。また、仲間がいることで問題を出し合ったりお互いの士気を高めることができます。あの子が頑張ってるんだから自分も頑張ろうと私もやる気が上がりました。

### 英検を取得すべし!!

文法を不安要素にしてしまったことは後悔しました。しかし英検2級以上を取得することで多くの大学で本番のテストで換算してもらえます。もともと英語が苦手であったり、本番に緊張してミスをしてしまったりしても、英検2級を取っておけば、学校によっては約8割～10割の点数が保障されるので、かなり有利だと思います。

Roads to success 2

# 新入試初世代となる先輩たちの体験記と受験対策の秘訣

Voice

## 合格体験記

Roads to success 3

卒業生体験記  
VOL.7

須長千夏 東京都立大学 法学部 / 中央大 [法] / 明治大 [法] / 法政大 [法] / 國學院大 [法] / 専修大 [法]

横浜平沼高校

自分が興味ある分野から進めていく勉強法で志望校に合格。

2年生→3年生へと学年が上がる時期は、自分がしっかりと理解できていないと感じた科目の基礎部分を固められるようにしました。特に古文や漢文は苦手な科目だったので、この時期は演習だけでなく基礎を重視して勉強しました。日本史は、最初の時期は学校や塾で習っている部分の予習や復習はもちろんですが、途中で自分が興味ある時代の予習にも着手していました。「受験勉強」につらさが出てきたら、自分が知りたいと思う分野から埋めていくのもいいのかなと思います。英語は、とにかく長文問題を毎日解けるようにしていました。解答解説を見た後に音読も一緒にやると、頭に内容が入りやすくなりました。12月頃には過去問演習を中心勉強を進めていました。長期的な勉強計画だけでなく、一日の終わりに今日やりたかったのにできなかつたこと、翌日の目標などをメモに書き出していました。また、自分が苦手な科目は後半期になっても基礎知識の確認を時間をかけすぎずに定期的にやったことで、応用問題をやり続けた後にあまり混乱しないですんだと思うので大事なことだったのかなと思います。先生方は、親身になって、現在している勉強法や、問題集、またそれらを使うべき時期についてのアドバイスを沢山してくださったこと、自粛期間初期の段階で、素早くオンライン授業を導入してくださったことで勉強のリズムを崩すことなく過ごすことができたと思います。

受験後の楽しみを語り合うことでつらい時期を乗り越える

コロナの影響で、不完全燃焼状態での部活動の引退や高校生活最後の体育祭や文化祭が中止となり、しっかり切り替えられない状態での受験生活となつたことはつらかったです。友達と、「受験が終わったら○○行きたいね!」と話したりして、「受験期は勉強がんばろう!」と気持ちの整理をつけることができたと思います。(これもまた、コロナの影響で実行するのが難しくなつたものが多いですが…泣。)受験生活は根詰めすぎたり、休み無しだとモチベも続かない気がします。もちろんたくさん勉強することも大事ですが、しっかり時間を決めてメリハリを付ければ休みを取ることは悪いことじゃないということと、生活リズムを整えることの大切さを覚えておくことは受験生活の上で重要じゃないかと思います。

卒業生体験記  
VOL.8

藤野鳩覽 東京理科大学 理学部

希望ヶ丘高校

万能な勉強法はない。学校の授業時間も無駄にせず、きちんと頭を使って努力する。

どの問題集がいいとか1日に何時間勉強しなさいとかそういう勉強法に関するどんな情報も万能ではありません。結局受かった人は、学校でも塾でもきちんと授業は聞いているし、自分で勉強もしているし、各大学の出す問題との相性(運)もあります。この体験談はあくまで合格不合格という結果を踏まえての私の主観となります。私の主な受験生活の一日の流れは、家やすずっと同じところにいると集中力が保てなかったので、学校の授業が終わったら学校に残って自習をし、塾の時間になつたら塾に移動して授業を受講しそのまま自習して家に帰って勉強するという流れで過ごしていました。夜は1時には寝ていたと思います。受験勉強は1年くらい続くことを考えると体が心配になるので、睡眠を削るくらいならもっと早い時期から勉強するべきです。不安に思つて志望校を下げたくなるかもしれません。しかし、志望校を下げることで得られる余裕は一瞬です。さらに勉強に対するモチベーションが格段に下がります。受験によって生まれる不安を根本的に解決する方法は勉強しかありません。とにかくゆっくりでもいいので進み続けられるといいと思います。私は、今日はこれくらいで終わるか!と思ってから最低30分は勉強することを心掛けていました。また、不安に駆られて学校を休んで勉強する人がいますが高校の授業を真面目に受けるだけでも大体5時間の勉強になります。学校の授業時間も無駄にせず、学校にはちゃんと行きましょう。友人と問題を出しあったりおしゃべりすることは良い息抜きになります。友人と一緒に残って自習をしたり、将来の展望を話したりすることでもモチベーションは維持されたと思います。また、行きたい大学なり職業なりがあるから人は長い間頑張れるのだと思います。私は将来の夢を優先し高校1年から第一志望を変えないことで常に気持ちを維持させてきました。

早めにコツコツ取り組むこと

数学科に進むことを考えていたので1日の勉強のうちほとんどを数学に費やし、物理をあまり勉強しなかつたら、高2のとき65あった偏差値が30になってしまいました。結局11月の推薦試験後から本腰を入れ、共通試験の問題から取り組みはじめました。高2までに物理基礎をやっていたので最終的に何とか持ち直しましたが、本当に理科は覚えなければいけないことが多いので、早い時期から手をつけ、計画的にコツコツ取り組んだ方が良かったと感じています。

友人と切磋琢磨した日々を大切に

志望理由書等の書類を作る際に自分と向き合わなければいけなくなったとき、私が大学でやりたいことは本当にこれなのかと進路選択に対して不安を感じ始めました。そんな中、それを乗り越えられたのは紛れもなく高校時代の友人のおかげです。本当の意味で理解してくれる友人がいたからこそ強がらず、自分の不安な気持ちも含めて素直に表現できたと思います。不安な気持ちを誰にも言えずためてしまわないよう、友人と切磋琢磨した日々を大切にして欲しいです。